

全労連支援対策本部ニュース

「能登半島地震」支援対策本部

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4階
TEL03-5842-5611 FAX03-5842-5620
Email:soumu@zenroren.gr.jp

2024年1月16日

NO. 3

支援物資を積み、能登町、さらに珠洲市へ

震災発生から2週間となる1月14日、石川県労連の長曾事務局長と全労連支援対策本部の渡辺事務局長代行は一人住まいの高齢女性への支援物資を積んで能登町へ伺いました。さらに珠洲市まで足を運び、被災のリアルな現状を視察しました。



支援のきっかけは元建交労組合員で全労連で主に宣伝カー運転手として働いていた藤谷さんの義母・藤谷美和子さん（91）が能登町に一人住まい。能登空港が使えないため、支援にも行けないという話を聞いて県労連と相談し、駆けつけました。

渋滞が予想されるため14日6時30分に金沢・県労連事務所から出発しました。前回同様、七尾市までは2時間程度で到着。さらに穴水町に入ると災害支援車両などで渋滞状態となりました。



自衛隊中部方面の車両をはじめ警視庁、神奈川県警、岡山県警などの警察車両、札幌水道局、いわき市の建設車両、福井・富山の中部電力など、まさに



12年前の東日本大震災を彷彿とさせる被災地支援の姿がありました。

渋滞にあいながらも穴水町そして能登町には11時過ぎに辿り着きました。実に金沢を出てから4時30分余りです。能登町に入るとあちこちに全壊や半壊した家がみられます。また倒れた家の下敷きとなった

車も多く見られ、震災時の凄さが垣間見えました。

能登町の鵜川周辺の象徴である菅原神社は鳥居が粉々に。その近くに藤谷美和子さんの家を発見できました。藤谷さんの家は2階が雨漏り、ガラス破損程度で体力的にも避難所生活は耐えられないと一人で住んでいます。支援物資は避難所中心で一度も配給がなく、電気が通っているものの断水状態の中、備蓄食料で震災から暮らしていました。持病があるため、薬については地元自治会役員がボランティアで運んでもらっているそうです。要望されていた支援物資（水、コンロ、ポンペ、ブルーシート、乾麺などの食料）を手渡すと、「ありがとう」と礼を言われ、喜んでもらえました。行政も避難所対策が手一杯で一人住まいの高齢者までマンパワー不足で回りきら



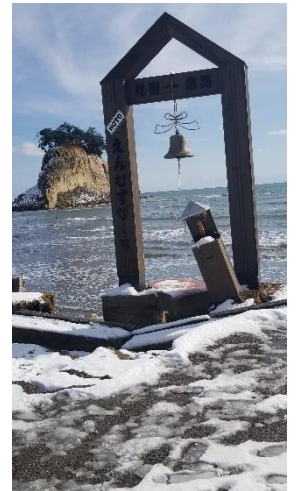
ず、今後奥能登の寒さが厳しくなるなか、災害関連死が危惧されます。

能登町を後にし、珠洲市へー震災の痕跡生々しく

能登町を後にし、被害の大きさが日々報道されている珠洲市へ、能登町から1時間程度で到着。珠洲市に入ると全壊・半壊した家だけでなく、電柱が斜めになった状態にあり震災時の揺れの凄さが



想像できます。珠洲市の観光スポット・見附島は岩が崩れ落ち、かつての原型をとどめていません。津波でモニュメントや船が流され、お店も閉鎖されています。町を歩くと地震で隆起したマンホール姿も。



今回の能登町や珠洲市の惨状をこの目で直に触れ、深刻な被災地の現状や被災者全体の支援が広がっていない現状を改めて知ることができました。

石川災対連再開にむけ、19日に打ち合わせ会議

石川県労連は1月13日、県労連幹事会および震災対策本部会議を開き、今後の震災対策について議論しました。会議では引き続き、被災組合員の状況について情報共有しました。とくに医労連からは子どもを預けられず、勤務できない看護師さんや輪島診療所では診療を続けているものの、訪問看護ができない現状が報告されました。現地スタッフが休めるような支援体制を取っていくとしました。また七尾市にある恵寿総合病院ではいち早くクラウドファンディングをおこない、当初目標の6千万円を超え、1億円に達するなどネットを通じての支援の輪が広がっていることも報告されました。

対策本部として、政府による中小企業融資金利優遇をはじめ被災企業の休業による賃金未払いへも支給など雇用調整助成金の特例措置などの制度活用にもむけ、宣伝を強めていくこととした。

また、1月19日に石川災対連再開にむけた打ち合わせ会議を開催、本格的な被災地の復旧・復興、被災者への支援にむけて本格的な準備が進められています。

被災者支援へ 支援募金に協力をお願いします！

<振込先> 名義:全国労働組合総連合

<入金先> 郵便振込 00170—3—426272
ゆうちょ銀行 019店 (当)0426272

※通信欄には、必ず「能登地震支援募金」と明記してください。